

●ロシア留学セミナー (東京 03/11/16) その③

留学はゼロサムゲーム 後編

柴田友子 (ロシア語同時通訳者)

昨年 11 月に行われた JIC ロシア留学セミナーで、同時通訳者の柴田友子さんに講演をしていただきました。JIC インフォメーション 128 号に掲載した「留学はゼロサムゲーム (前編)」の後編です。

短期間、繰り返し行くという方法もある

選択肢としては、日本をベースにしながらかロシア語を学び、ロシアに留学する、あるいは、長期的にロシアに行って、ロシアをかなりベースにしながらか仕事を選んでやっていく、という二つの考え方があると思います。ただ、日本に帰ってきて日本で仕事をしようと思うんだら、軸足をどこに置くかということはとても大事なことです。日本で勉強しつつ時々行くっていうバージョンもあるし、それはもしかしたら意外と良いかもしれないなと思います。私、実は駅前留学の NOVA に行っていて、ごめんなさい、決して商売敵じゃないよね？英語とフランス語をやっているんですけども、大体皆さんと同じくらい、あるいはもう大学を卒業したくらいかな？フランス語をやっている人がいて、半年 NOVA に通いながら仕事をして、お金をためて、半年フランスに行っちゃうのね。そうして何年か繰り返したんです。やっぱり明らかに、行って来たメリットというのは出てきます。そういうのを見ていると、短期で何回も行くっていうのも意外に良いなと思います。ちょっと私事になってしましますが、うちの娘ですけども、長女は割りと親の意向をみながら育っていくもので、やはり語学畑に行きました。だけど、さすがに母親と同じ言葉をやるのは辛いと、親も彼女も思ったのでドイツ語をやっています。で、卒業して、就職しなかったんですけども、彼女は東京で仕事をしながら、アルバイトで繋ぎながら、去年の秋ドイツに行ってきた、そして帰って来てまた勉強しています。きつともうすぐ、また行くと思うんですけども、私は自分が若いとき留学行きたかったけど行けなかったものから、彼女に若いうちに行けばって何回も言ったんだけど、意外に自分の考えに頑固で、勉強するのは日本です、たまに行つて向こうで確認してくるっていう、行き方を取ったんですね。で、結構正しいことを言っているなと思ったのは、留



学に行ったお友達を見ていて、短期で行ったはずの人がずると長期になってしまう、あるいは、ずっと行ききりになってしまうというケースが結構あるんですね。それはなぜかと言



うと、留学と云って、誰もがそう確固とした目的をもって行くわけじゃないから、まああまりはっきりした目的を持たずに行きますよね。それで、例えば 1 年たって、自分が目的を達したのかどうか分からないために、もうちょっと居ようかなって思ってしまう。で、そのうち定住した方が楽なような気になってしまう。そうしてなかなか帰ってこないというケースはかなりあって、それは、やっぱりもったいないと思うのですね。

留学はどの段階で行っても意味がある

時々行き来して、日本に帰って来て自分のやることをやって、そしてまた行ったらまた新しいレベルでやれるっていうのもある。それも選択肢の一つとして皆さんに考えて欲しいかなと思います。ただその場合に、どの段階で行っても留学のメリットはあると思うんですね。一番初期の段階で行く、何も知らないで行くっていうのも凄く楽しいことです。何も知らずに行つて、そしてどっぷりとロシアに浸かってしまうのもとっても楽しいことです。どっぷり浸かっちゃただけでそれ以上ロシア語を勉強しないのではだめなんですけど、そういう形で、まだちょっと文法をやったぐらいで行くっていう人には、とにかく楽しい思い出を持って帰ってきて欲しいなと思います。そして、それをベースにしてまた勉強して欲しいなと思います。逆に、かなり勉強してから行くんだら、多分自分が何をしなきゃいけないかっていう方向性みたいなものを、ある程度洗い出してきた段階で行くと思うんですね。そういった段階で行く人たちに、やっぱり意識的に考えて欲しいのは、仕事で使える言葉っていうのは、日常の言葉とは違うってことなんです。長期で留学して来た人、あるいはネイティブの人でもそうなんですけども、言葉のレベルがいつまでたっても進歩しないという問題があります。何年かむこうに住んでいたと、日常生活で不便はしなかったと、で、通

じるんだからという気持ちを持って帰ってきますよね。そこで、自分の言葉のレベルを上げる努力をしない。もちろんそのことは誰も言うてくれないから、本人は言えてるんだし通じてるんだから良いと思ってる。でも同じことを言うのでも、例えば前回〇〇大臣が日本にいらした時って、ただそれだけを言うにしても、単純な動詞を繋いで、*когда он был в прошлый раз в Японии* って言う時と、*во время прошлого официального визита* っていう言い方もあるし *он находился в Японии с официальным визитом* っていう言い方もあるし、いろいろな言い方があるんです。その言い方を自分の仕事のレベルに適したレベルで選んでいくんだよっていうことを分からないままに、ロシア語が上手にしゃべれるからと思って、どんどん仕事を取ってしまうというケースもありえます。仕事に必ずしも結びつかなくても、言葉のレベルっていうのは、今あなたがもっているレベルが最高なんじゃなくて、まだまだいろんなレベルがあるんだということを、いちいち感じて欲しいんですね。仕事で使える言葉というのは決して学生言葉でもないし、下宿のおばさんと話してる言葉でもないし、それは、日本にいてもロシアにいても自分で積み上げていかないと、入ってこない言葉です。だから、かなり出来る段階で行く人には、その辺を意識してやって欲しいと思います。

どうするかっていうと新聞とか書物をキチンと読むということが大事だと思います。これは英語の放送通訳の第一人者である水野先生も、通訳になりたいけれど力が足りないという人へのアドバイスとして、「毎日コンスタントに読みなさい」と言っておられます。読むというの、口頭翻訳をしながら読むという読み方があったり、速読でたくさん読むというやり方があったりいろいろですけども、水野先生が勧めていらっしゃるのやはり、辞書を片手に一つ一つ丁寧に読んで、少なくとも毎日2時間読みなさいとおっしゃってるんですね。これは結構大変な事で、私も一所懸命読んでいるけれども、まあ忙しいからなかなかできません。でも

それくらいは読んでないとダメだろうなと思います。言葉のレベルを意識的に上げていくということが大事だと思います。



ロシア語暦〇十年、私の留学体験は3年前

私は留学というのはいつ行っても良いと思うし、事情が許せば、何回も短期で行けたら行った方が良いと思いますし、繰り返しますけれども、どの段階で行ってもメリットはあると思います。

私の経験ですけれども、初めて短期の留学に行ったのは2000年6月のことでした。期間は2週間。なんで行ったかという、たまたま入っていた仕事キャンセルになったんですね。長期間の仕事だったのでショックだったけど、それでは行ってみようかなと思って、モスクワ大学の留学生用のセクションで午前中レッスンを受けて、午後はひたすらとにかく町を散歩して、たくさん遊んで来ようと思って行きました。幸いにもとても良い先生に当たって、ホームステイ先もとってもいいところで、モスクワ大学はモスクワ環状線のかなり南の下の方にあるんですけど、その地下鉄の端っこのユーゴ・ザーパドナヤという駅のすぐ近くにホームステイを取る事ができました。なにしろご飯をちゃんと作って食べさせてくれるっていうのがすばらしくて、また留学のメリットとして、若い人はまた別なんですけれども、結構年取ってから行く人にとっては、一人になれるチャンスだということ、それから、ロシア語のことだけを考えていけばいいというチャンスでもある。ご飯作らなくてもいいっていうのはすごく素晴らしい環境ですよ。そういった中でロシア語を堪能して、とっても楽しかった。その段階で行って何がよかったかという、言葉が分かるってことがすごくよかったんですね、私の場合。言葉が分からないためにのしかかってくる不安とか、無意味なプレッシャーとか、そういうものが無かったのもとっても楽しかったし、それとロシアっておばさんをとっても敬う風潮があって、とても大事にしてもらえる。皆さんはまだ若い人ばかりですけど、どの年齢であってもチャンスがあったら、留学を考えてみたら良いんじゃないかなって思います。



言葉を拾い集め、積み上げる努力

それで私はどういう勉強をしているかという、仕事で会議なんかの準備に入るときに、会議のタムは当然拾っていきますけど、それと同時に普通のフレーズを一所懸命拾います。で、こうやってノートをついて作ります。例えば、これ宇宙ってノートでね、ついこの間、

JICの1週間からのロシア留学



なかなかお休みが取れなくても、1週間ならなんとか時間を捻出可能。旅行感覚でいけるプチ留学。ホームステイ&個人レッスンが基本です。パンフレット「いつでも行ける短期プライベート研修」をご覧ください。

宇宙飛行士会議という 5 日間の会議があったんです。世界初の宇宙遊泳をしたレオノフさんとか、ロシアから宇宙関係の方がいらっしゃいました。宇宙の話は日露間でもいろいろやるチャンスがあるので、書き溜めてありまして、どういう言葉を拾っているかという、「地球をもっと美しいものにして次の世代に渡す」とかね、「地球は青かった」とかそういうのは拾うんだけど、「人類が初めて足を踏み入れた」とか、「これまで人間の行ったことがない」という言葉をどういう美辞麗句で言えるか、あるいは普通の言葉で言えるかっていうことをたくさん積み上げてあります。

先の 2 週間の留学で行ったときの私のテーマは、**фразиологизм** でした。慣用句です。慣用句で行ったんだけど、やっぱりまだたくさん知らないことはあって、作文を見てもらったり、完了体、不完了体が違うとかそういうこともいっぱいチェックしてもらってとても為になりました。

ロシア語を始めてかなり早い段階で行く人には、一番私がやって欲しいと思うのは、早い段階からロシア語の完了体、不完了体っていうのは明らかに違うんだってことを意識的に叩き込んでいって欲しい。それはとても大事なことで、人によってはもう仕事を始めてる人で、通訳なんかをやっても、混同しているケースがたくさんあります。例えば、テレビの通訳なんかやっていると事前に原稿があがってきたり、向こうの局がこういう訳し方をしてるといのが来たりするんですけど、ごく直近のイラク問題がとても注目されていた時に、国連総会でプーチンが演説を行って、その時に彼が、「イラク問題が国連の枠内に戻りつつあるのは大変喜ばしいことである」と言ったんですね。彼は **возвращается** って言ったんだけど、事前原稿で来たのは、「戻ったのは喜ばしいことだとプーチンは述べた」とかね。そうすると、戻ってしまったのか、戻りつつあるプロセスなのか、実は大きな違いじゃないですか。そのことを、日本人は学校で習う時、完了も不完了も一つの対にして習うから、分からないときはどっちか言っておけば通じるんじゃないかって思いがちなんですけど、そういったことは日本のロシア語教育の中で、うんと早くから、別の言葉なんだよって教え込んでいく必要があるんじゃないかなって思います。

どういう言葉をどういう状況でロシア人が使っているのかということに、たくさん触れるチャンスが留学ですよ。それは、どのレベルでも捕まえられるものはたくさんあるし、そういったものを出来るだけ自分の身に着けて、拾い集めて帰ってきて欲しいし、どの人も行って楽しい留学生活を送って欲しいと思います。

もう一つ言わせてもらおうと、私はごく初期の段階で、露作をやるっていうのは結構つまらない事だと思っているんですね。自分の言いたいことをロシア語に作文する。これは自分で一所懸命作っても、どんなに作ってそれは日本人が作ったロシア語ですから、複雑な話になればなっていくほど、不完全なものになってしまう。自分が一所懸命作ったとはいえ、不完全なロシア語をそれで良いと思ってしゃべっているというのは、私としてはあまり嬉しくない。「このことを言いたい」って時にね、それに相当するロシア語っていうのは、いっぱいあるはずなんですね。で、そのうちのどれを選ぶかっていうのが、私達が言うところの露作、ロシア語作文なのであって、決して自分の頭の中だけでひねり出して作るものじゃないと思うんですね。その為には、そこで使えるフレーズを出来るだけたくさん自分が持っているっていうことが大事です。もしこれが言いたいという時に、このフレーズしか無かったからしょうがなくそれを使うけど、もっと他のフレーズもたくさん持っていたら、その中のどれかっていう選択肢が増えてくる。それは留学に行っているいろいろな言葉を聞いて拾い集めるっていうことでもあるし、また留学に行かなくても意識的に自分がコレクションするというところでもあるんだ。そういう風に思います。

思ったより時間が過ぎてしまいました。これで終わりたいと思います。皆さん頑張って下さい。

私、JIC のキャッチフレーズとして、「**JIC は頑張る人を応援します**」というのをものすごく気に入ってるんですね。私も、ものすごく応援してもらったし、是非皆さんがこれからロシア語をやっていく上でも、みんなが頑張れば、応援してくれる人はいっぱいいるんだよっていうこと事を思って、頑張って下さい。



JICのロシア語研修コース一覧

★1 週間からのプチ留学

モスクワ・ペテルブルグ・ウラジオストク
ホームステイ&ロシア語レッスン

★いつでも行ける短期プライベート研修

モスクワ・ペテルブルグ・ウラジオストク
宿泊はホームステイと寮を選ぶことが出来ます

★夏のロシア語研修旅行 2~3月(ペテルブルグ大学でのロシア語グループ研修 2 週間+モスクワ旅行)

★春のロシア語研修旅行 9月(モスクワ大学でのロシア語グループ研修 2 週間+ペテルブルグ旅行)

★長期留学 (国立モスクワ大学・国立サンクト・ペテルブルグ大学・国立ウラジオストク極東大学)

10ヶ月間 4月出発 9月出発

詳細は各パンフレットをご請求ください。

